

晴海地区将来ビジョンの実現に向けて【平成29年度】

1. 晴海地区将来ビジョン推進会議のこれまでの取組について
2. 晴海地区将来ビジョン推進会議の平成29年度の取組について
3. 晴海おもてなし実行委員会による具体的な取組の実施（報告）
4. 首都大学東京饗庭伸教授による分析・提案等について
～まちづくりの現在地と将来に向けて～
5. 今後の晴海地区将来ビジョン推進会議について

【参考】晴海地区将来ビジョン推進会議の開催内容について

【平成30年3月7日】

晴海地区将来ビジョン推進会議

1. 晴海地区将来ビジョン推進会議のこれまでの取組について

晴海地区将来ビジョン推進会議では、平成26年12月の『晴海地区将来ビジョン』策定以降、当該ビジョンの実現に向けた取組について、適時適切な情報共有と地域全体として取組むべき方向性についての意見交換を行ってきた。

特に、東京2020大会後約12,000人もの人口増加が見込まれることから、晴海地区全体のコミュニティ形成を重要な視点として、平成28年度は、地域の方々が主体となる共助としての「ソフトの具体的な取組」についてアイデアを持ち寄り、検討を行った。その中で、企画・運営を行う担い手の育成・仕組みの構築や、広報、PRの強化が必要であることの課題が明らかになったため、取組の方向性として、具体的な運営の仕組み（体制、場所、支援の受け方）、具体的なPR方法（住民や就業者への周知方法、担い手の呼びかけ等）の検討を深めるとともに、各者、各団体がモデル的な取組を検討する必要があるとまとめた。

（P1-2、P1-3 平成28年度資料参照）

取組の方向性

◎課題

①企画・運営を行う担い手の育成・仕組みの構築

取組の実施には、企画・運営を行う担い手が必要であり、既存の取組においても担い手の育成が課題となります。さらには、取組に必要な資金調達などの運営の仕組みを構築する必要があります。

②広報、PRの強化

既存の取組について認知度が低いものもあることから、より多くの方々に参加してもらうためには、取組に対する広報・PRの強化が必要です。

新たな場所で行き組む際には、地域の方々へのご理解を得ることも必要です。



◎取組の方向性

新規に取組を実施するには、企画・運営を行う担い手の募集や地域の方々の理解を得るなど、取組開始までの調整事項が多く、準備に非常に時間がかかることが予想されます。

一方、東京2020大会における選手村を擁する晴海では、その機会を活かすことで取組の認知度が高まり、多くの参加者を得ることができると考えられます。

こうしたことから、既存の取組を拡充（担い手の育成に取り組みやすいこと、地域の理解を得られやすいこと）し、東京2020大会のおもてなしにも関与できる取組をモデル的な取組として捉え、今後、取組の具体化、運営に関する仕組み、PR方法などの検討が必要です。

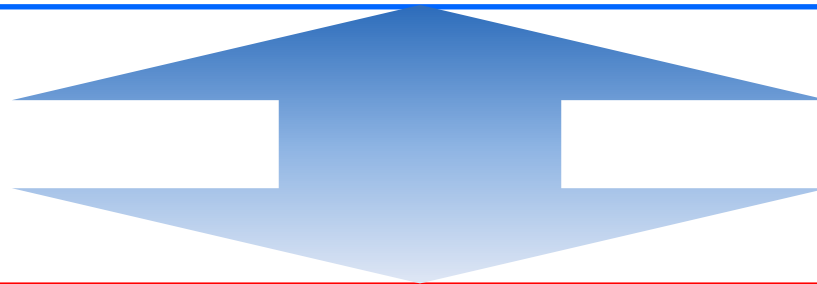
平成29年度の取組イメージ

晴海地区ビジョン推進会議

- ・ハード計画内容の確認
- ・ソフトの検討

ソフトの検討内容

- ・具体的な運営の仕組み（体制、場所、支援の受け方）
- ・具体的なPR方法
（モデル的な取組に参加してもらうための就業者及び住民への周知方法）
（担い手（就業者、住民、学生）の呼びかけ等）



モデル的な取組

- ・各者、各団体で
個別に検討
（右は例示）

夏祭り・盆踊り



花とみどり



スポーツ



2. 晴海地区将来ビジョン推進会議の平成29年度の実施について

平成29年度は、引き続きハード面の整備として、晴海五丁目小中学校や晴海五丁目西地区の道路景観、晴海ふ頭公園等について、ビジョン実現に向けてより良い計画となるように議論を行った。

また、ソフトの実施検討にあたっては、首都大学東京の饗庭伸教授からのアドバイスを参考にしながら、スモールイベントを実施し、その結果を通じて今後の検討課題を見出すこととした。

そこで当会議において、晴海地区の地域コミュニティ形成のテーマの議論を重ねた上で、構成員を中心とした実行組織（晴海おもてなし実行委員会）を立ち上げ、晴海地区に関わる人々との連携を図ることでスモールイベントの実現にいたった。その結果を整理し『晴海地区将来ビジョンの実現に向けて【平成29年度】』を取りまとめた。

2-1. 地域コミュニティ形成にかかる具体的な取組について（1）

構成員が、スモールイベント実施の目的を確認した上で具体的な内容について検討を行った。

スモールイベント実施の目的

- ・晴海地区に関わる人々が広く繋がり、地域をよく知るきっかけをつくる
- ・地域の人々の東京2020大会に対する意識を向上し、一体感を生む

ビジョン推進会議におけるスモールイベント（案）

構成員から3つの企画（案）が提出され、この内容について議論した。

【1】地域を知る企画

- ・新しく晴海に住まう人とこれまで晴海に住んでいる人の交流や情報交換としての場とする
- ・まずは、自分たちの住むまちに興味を持ってもらい、愛着を深める

①まちの探検企画、地域報告会

まち探訪、相互紹介、解体される予定の既存の施設を生かす

②タウン誌、フリーペーパーの作成

晴海の歴史、気になること、地域の人を紹介

【2】晴海キャラクターづくり

- ・地域内外の子供から高齢者までの参加を通じて、他世代での交流を図る
- ・公募イベントとすることにより多くの人を巻き込む

【3】選手村神輿&国際イベントを地域で考える企画

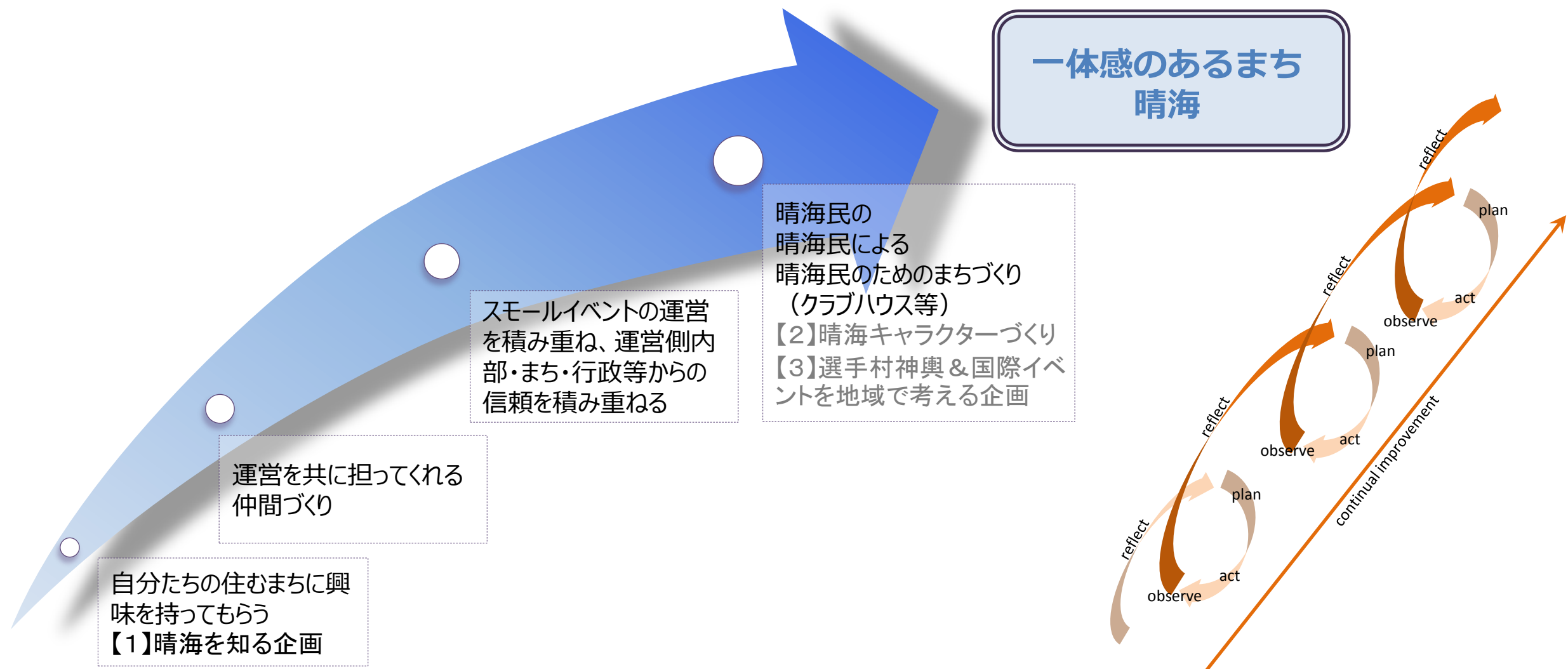
- ・東京2020大会を盛上げながら、おもてなし機運を高めていく
- ・地元の恒例行事を広く知ってもらい、地域活動に取り組む人々を育てる

2-1. 地域コミュニティ形成にかかる具体的な取組について（2）

提出された3つの企画（案）の中から、将来の地域コミュニティ形成に向けた基礎とするため、まずは、晴海を知ってもらい仲間を増やしていくことを念頭に、取り掛かりとしての実現しやすさ等も考慮し、【1】地域を知る企画を選択した。

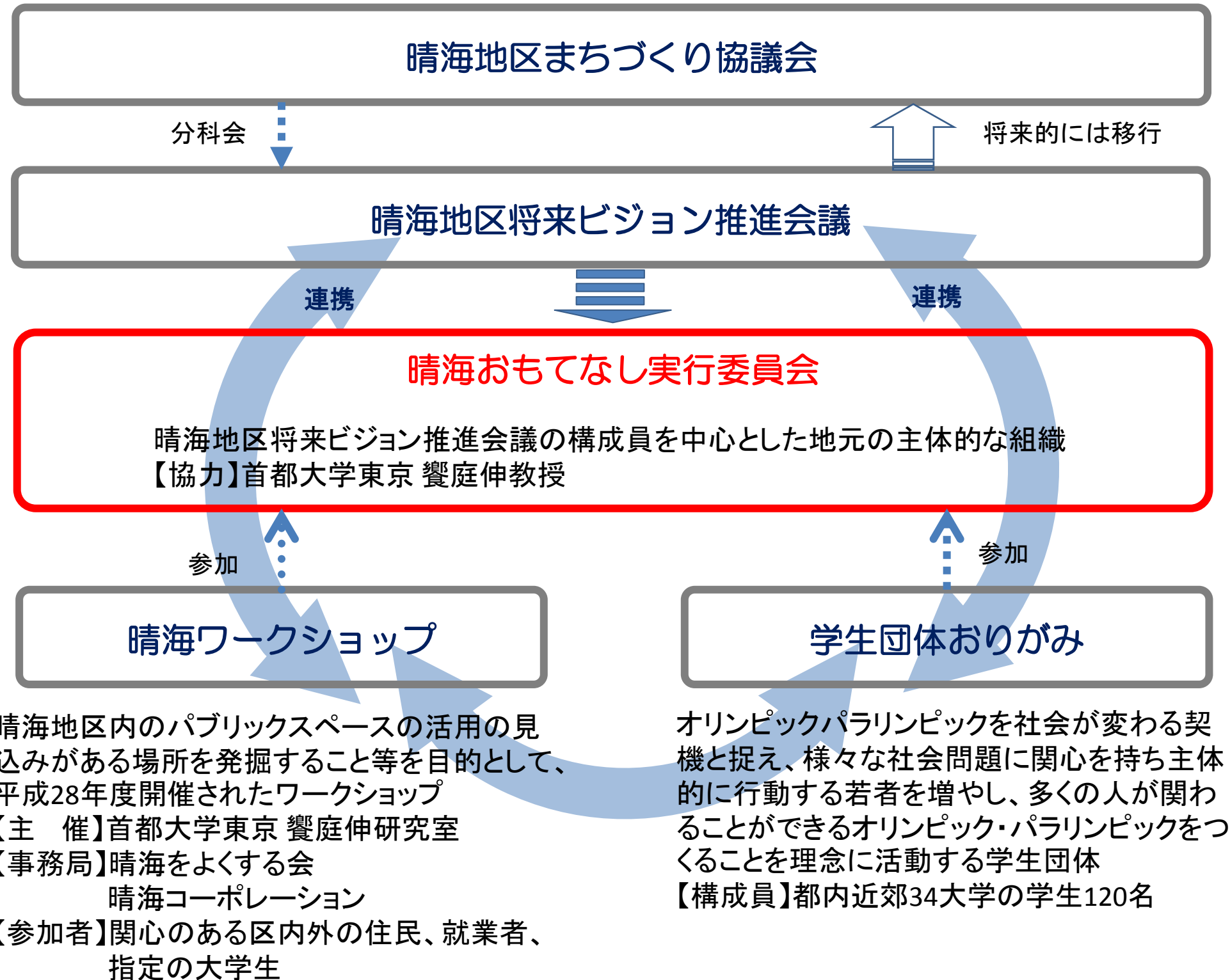
【1】地域を知る企画として、晴海内外の人々を対象に「晴海を知る、知ってもらう」「東京2020大会を迎える」をテーマに、晴海地区将来ビジョン推進会議構成員や関係団体との連携の中で実現可能なスモールイベントとして、晴海の方々とまちを巡り体感し、魅力を再発見する企画を行うこととした。

また、【2】晴海キャラクターづくり、【3】選手村神輿&国際イベントを地域で考える企画については、今後仲間づくりや、スモールイベントの運営を積み重ねる中で段階的に行うこととした。



2-2. スモールイベントの取組体制について

今後の晴海地区のコミュニティ形成において、晴海地区に関わる住民、企業や団体が一体となることが必要であり、スモールイベントの実施にあっては、晴海地区将来ビジョン推進会議の構成員が中心となった組織（晴海おもてなし実行委員会）を立ち上げ、晴海地区に関わる人々との連携によって実現できるような体制づくりとした。



3. 晴海おもてなし実行委員会による具体的な取組の実施（報告）

晴海内外の人々を対象に「晴海を知る、知ってもらう」「東京2020大会を迎える」をテーマに、晴海の方々とまちを巡り体感し、魅力を再発見する企画とし、スモールイベントとして実施することとした。

（1）実施概要

1) 日 時 平成29年11月26日（日）13:00～18:30

2) 会 場 晴海トリトンスクエア他、晴海地区内各所

3) 対 象 区内在住、在勤、今後晴海地区に居住希望の方

4) 内 容 第一部 ブラハルミ

第二部 マップづくり報告会

普段見ることの少ない晴海の特長的なスポットを巡り、そこで体験したことを基に晴海の未来図を考える。

5) 周知方法 チラシ配布、ポスター掲示（右図参照）

ホームページ掲載、SNS

6) 申込方法 電子メールによる先着順申込み（定員30名）

7) 参加者 第一部 大人32名、子供5名

第二部 大人9名

晴海を知る・体感する
企画第1弾

TOKYO 2020
応援プログラム
街づくり

1000 Days to Go!

わたしの街、晴海をぶら〜りと歩いて魅力を再発見!

ブラハルミ
BURA HARUMI

晴海ってどんなまち？
これからどうなるの？

2020年に再びオリンピック会場となる東京。そして、晴海地区は大会選手村となり、将来はどんな街になるのでしょうか？晴海地区はこれまでも、どういった街を目指すのかというビジョンを住民と企業の有志が集まって討議を重ねています。そして、晴海地区全体を見据えたコミュニティづくりにと【晴海地区将来ビジョンの実現に向けて(平成28年度)】がまとめられました。この企画はその第一弾として、晴海内外の方を対象に「晴海を知る」「知ってもらう」「大会を迎える」という3つのテーマをもとに街巡りを体験し、魅力を再発見するイベントです。

参加者募集
先着30名

開催日時 **2017年11月26日(SUN)** ※小雨決行

第1部 ブラハルミ(見学会) / 13:15~16:30 第2部 マップづくり報告会(懇親会) / 16:30~18:30

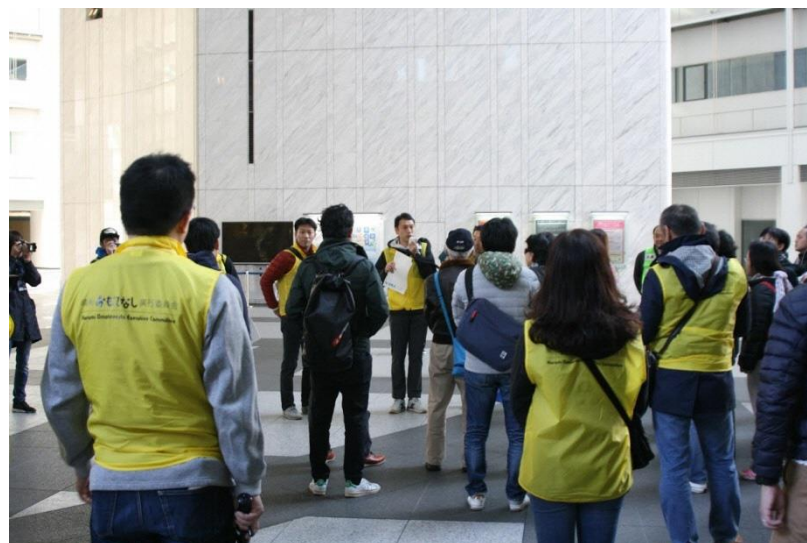
募集の詳細は裏面をご覧ください。 申し込みは **buraharumi@gmail.com**

(2) 実施状況

第一部 ブラハルミ (13:00~17:00)

<見学ルート>

東京臨海部模型
↓
トリトンスクエア
↓
晴海団地遺構
↓
二丁目護岸
↓
ふるさと晴海展示館
↓
晴海郵便局
↓
豊洲大橋
↓
防潮堤 (陸閘)
↓
東京鯉節センター
↓
アンケート実施
(P3-3参照)



トリトンスクエアまち歩きの様子



ふるさと晴海展示館まち歩きの様子



東京鯉節センター鯉節削り体験の様子

(同日開催された連携イベント)

外国人ワークショップ

(10:00~12:00)

【主催】首都大学東京

饗庭研究室

晴海在住の外国人の方が晴海での生活で感じる
こと、晴海への思いなどを意見交換

第二部 マップづくり報告会 (17:00~18:30)

晴海の地図を囲み、晴海を歩いた印象
や気づいたこと、将来の思いを語り合
い、書き込み、参加者の思いをマップ
に落とし込んだ



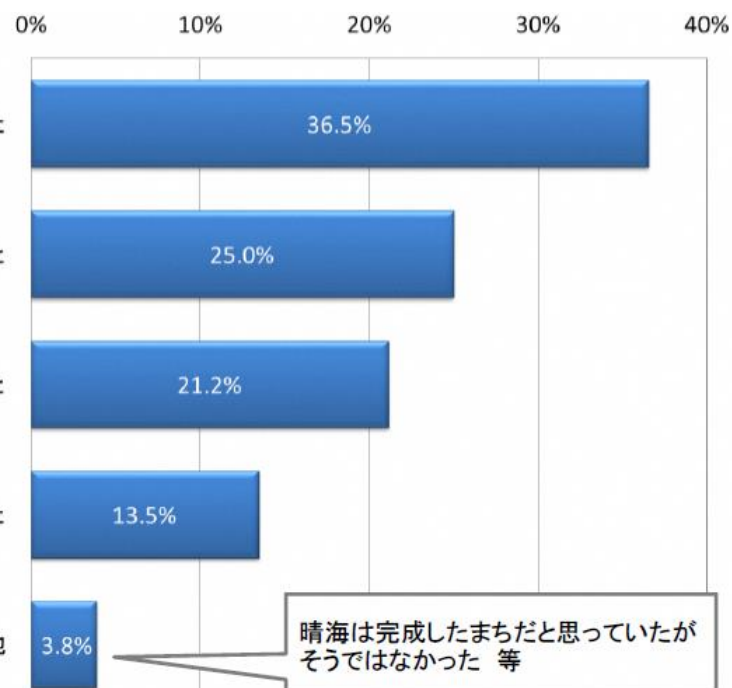
（３）参加者アンケート（抜粋）

第一部終了後、参加者（子供除く）にアンケートを実施し、27名から回答を得た。その内容を以下のとおり、取りまとめた。

１）今回のまち歩きについて

普段知らなかったまちのことや歴史などを知れて有意義だったため、今後も継続的に開催してもらいたいという意見が多かった。

まち歩きで感じたこと（複数選択可、N=27）



晴海は完成したまちだと思っていたが
そうではなかった 等

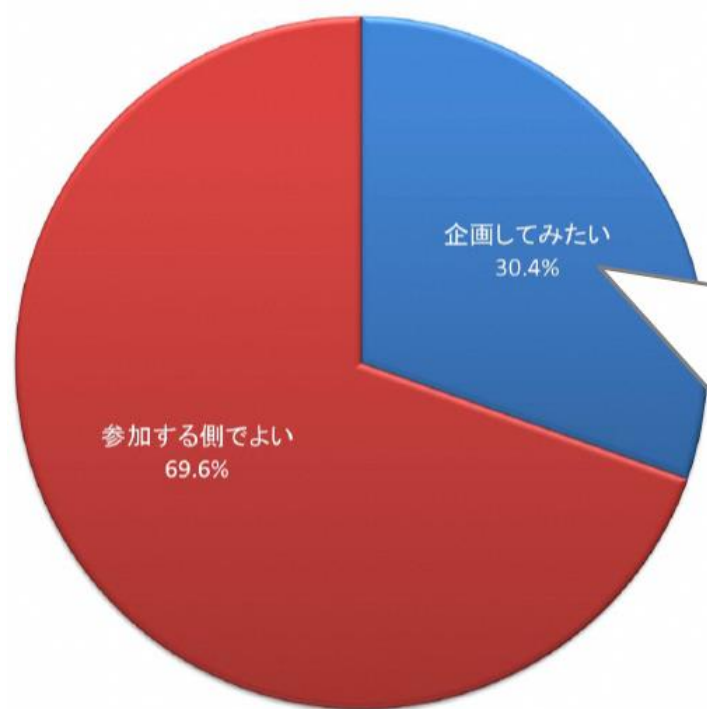
その他気づいた点、意見、感想等（記述回答を要約）

- ・晴海の新しいこと、知らないこと等を発見できて楽しかった
- ・非常に有意義だった、新しい住民には素晴らしい企画だと思う
- ・今後も継続的に企画、開催してもらいたい、また参加したい
- ・個人では入れない場所、行けないところを見ることができてよかった
- ・近隣のこともなのに新しい気づきや感動があった
- ・晴海の成長や変化がゆしみ
- ・晴海の魅力がさらに増した、近い将来晴海に住みたい
- ・晴海在勤で自宅との往復だけだったが興味深い様々な場所を知ることができた
- ・有料でもよいと思えるイベントだった
- ・オリンピックに向けて「食」の発信で晴海を盛り上げたい
- ・土曜の開催、集合時間や開催時間
- ・このような活動があることを知らなかったので今後はもっと宣伝すればよいと思った
- ・実行委員会の方のおもてなしに感動した 等

２）今後の活動について

様々な形で地域を知れる活動の企画に興味がある方が多く、地域活動への意識が高い方も多数存在することがわかった。

このような活動の企画・実施への興味（選択、N=23）



＜具体的な内容＞

- ・晴海の未来のまちづくりに関する活動
- ・晴海の安全・安心について考える活動
- ・第一生命ホールとのタイアップ企画
- ・豊洲大橋オープンウォーク
- ・インバウンド・外国人住民向けイベント
- ・鯉節と晴海の文化
- ・トリトンスクエアの地域冷暖房の設備見学等

今後参加してみたい行事・活動（記述回答を要約）

- ・晴海の運河側でファーマーズマーケットや朝市を月1回程度開催
- ・水辺（晴海大橋、豊洲大橋、晴海ふ頭等）の散歩
- ・地域を知るイベント、まちの魅力の紹介
- ・オリンピックに関連したイベント
- ・普段見ることのできないところ、行けないところの見学
- ・晴海地区の今後の変化に注目した活動
- ・晴海地区の活性化、まちおこし等につながる活動
- ・地域やオリンピック・パラリンピックに関連したボランティア活動
- ・船から見た晴海
- ・古い住民や開発関係者からの話を聞く、古い資料を見るイベント
- ・今回のような社会科見学
- ・晴海が今後も広く認知されるまちとなるような活動や行事
- ・防災訓練、防災関連のイベント 等

(4) 実施のふりかえりと課題

○企画内容の選定

- ・最初にめざす晴海のコミュニティのあり方を共有し、企画を決定した。単なるイベントとして終わらせないため、その議論に十分な時間を要した。
- ・今後もロードマップを見据えながら、目標を関係者間で共有しながら進めることが重要である。

○企画の対象

- ・晴海を知る企画としては、民間の空間だけではなく、地域資源である公共的な空間を活用することも有効だった。身近にありながら知らないこと、普段行かない場所の魅力再発見につながった。
- ・今後様々な企画を行うにあたり、引き続き、晴海の公共的な場を活用することが相応しいと思われる。

○実施体制

- ・「晴海おもてなし実行委員会」スタッフの、役割分担を明確にすることからスタートした。各種手続きや関係者調整、安全管理や情報管理も必要のため、主催や代表者を定め、体制構築することが重要だった。
- ・しかし、スタッフはイベント実施のプロではなく、準備段階から手探りであったため、どれくらいの規模で行えるのかなど、自らの力量を把握することが難しかった。
- ・スタッフの経験面や費用面での課題があったが、今回行政や各団体から人的・費用的な協力を得られたことで、スタッフの負担の軽減と企画内容の充実につながった。今後、様々なスモールイベントを積み重ねるにあたっては、イベント開催の経費を確保するとともに仲間を拡大し継続することが重要である。また、各団体の協力を得ながら、専門分野は委ねることが必要である。

○周知方法

- ・周知方法は、チラシやポスターを晴海地区内の配布やSNSを活用した。
- ・今後は、企画の内容・規模に応じて、周知期間の変更や効率的かつ効果的な周知方法を模索する必要がある。

(5) イベント後の展開に向けて

○広報誌による取組の周知

- ・今回のスモールイベントを広報誌により地域や外部に広く周知し、晴海を「知る」「知ってもらおう」機会をつくり、住み続けたい・住んでみたい、働き続けたい・働いてみたいといった意識やニーズを高めていく。

○参加者のフォローアップとよびかけ

- ・参加者アンケートより、地域コミュニティ形成にかかる活動の企画や実施への興味がある人が3割程度の割合で存在した結果から、広報誌作成の機会や今後の新たな取組等への参加をよびかけ、地域の担い手の仲間を増やしていく。

○今後の取組

- ・既存のお祭りや防災活動等の機会や、個性的な各マンション・人材等の晴海独自の資源を生かして、様々な視点によりさらに晴海を知ることができる企画を継続していくことが望ましい。
- ・晴海で活動する各団体の支援を行うなどで、連携強化を図るとともに担い手の拡大につなげていく。

4. 首都大学東京饗庭伸教授による分析・提案等について ～まちづくりの現在地と将来に向けて～

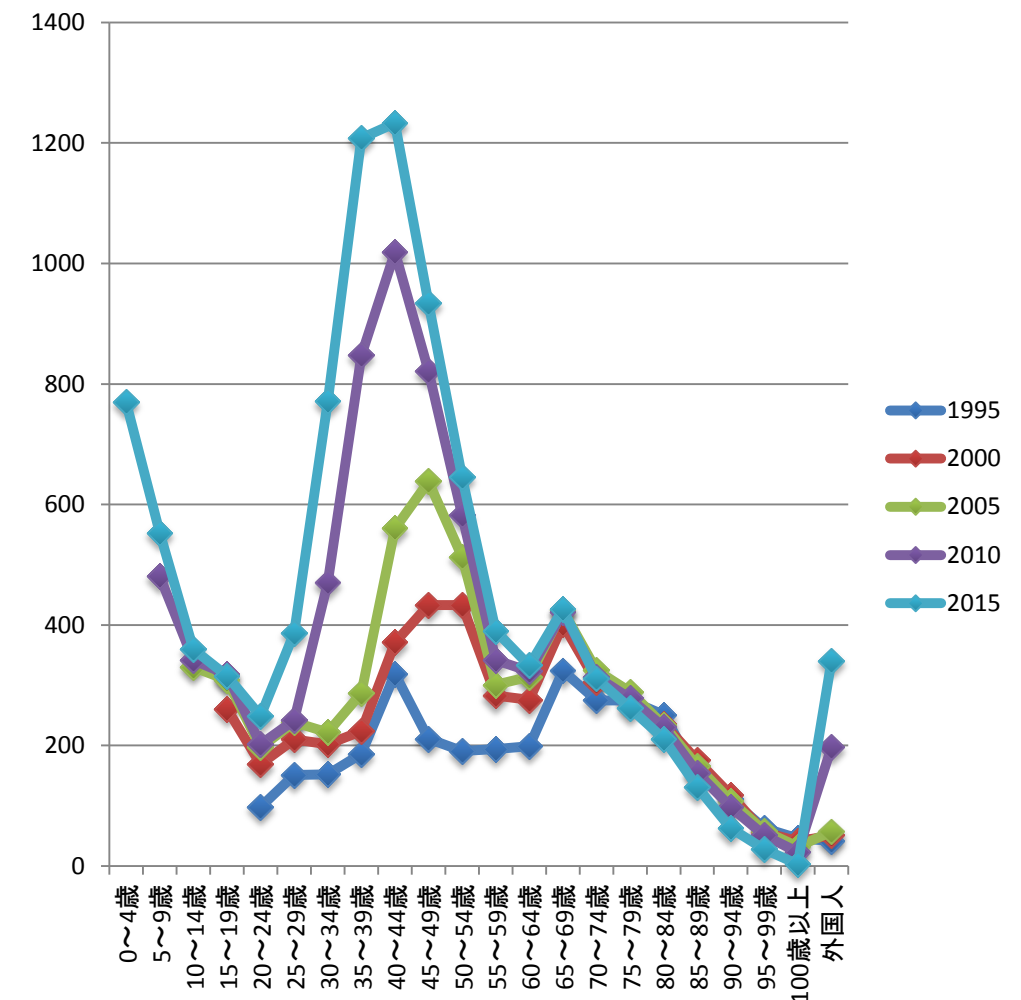
晴海地区の人口構成を分析してみると、30歳代後半から40歳代にかけての人口が同時期に流入していることが特徴です。大規模なタワー型のマンションが立地している地域に特徴的な現象と言えます。晴海おもてなし実行委員会や、ブラハルミに参加した方々の顔ぶれを見ても、この年代の参加者が多く見受けられました。2017年度に、この年代ならではの思いやニーズに即したまちづくりがまずはスタートできたと見てよいでしょう。

2017年度

都内でもこれほど若い町は少ないと思います。まだまだニーズは拾い切れていないとも考えられるので、2018年度以降は、若い世代が町に必要なことを、スピード感を持って実現していくまちづくりが求められます。

2018年度

将来的なことを考えておきましょう。単一世代が同時期に流入した町は、一斉に小学校が足りなくなったり、一斉に高齢者施設が足りなくなったり、という問題が起きることが知られています。例えば同じような問題をかかえる「多摩ニュータウン」では、近年になって余った小学校を老健施設にコンバージョンするという取り組みも行われています。こうした先例に学びつつ、「長く住み続けられる晴海」を目指して、今のうちから取り組みを進めておくことも重要ではないでしょうか。



晴海地区の人口の生年コーホート分析：2015年の居住人口が、2010年、2005年、2000年、1995年に何人居住していたのかを見ることができる。

5. 今後の晴海地区将来ビジョン推進会議について（1）

晴海のまちの形成（ハード面）、地域全体のコミュニティ形成（ソフト面）については、饗庭伸教授の分析・提案等を踏まえ、引き続き晴海地区将来ビジョン推進会議にて議論・検討等を行っていく。

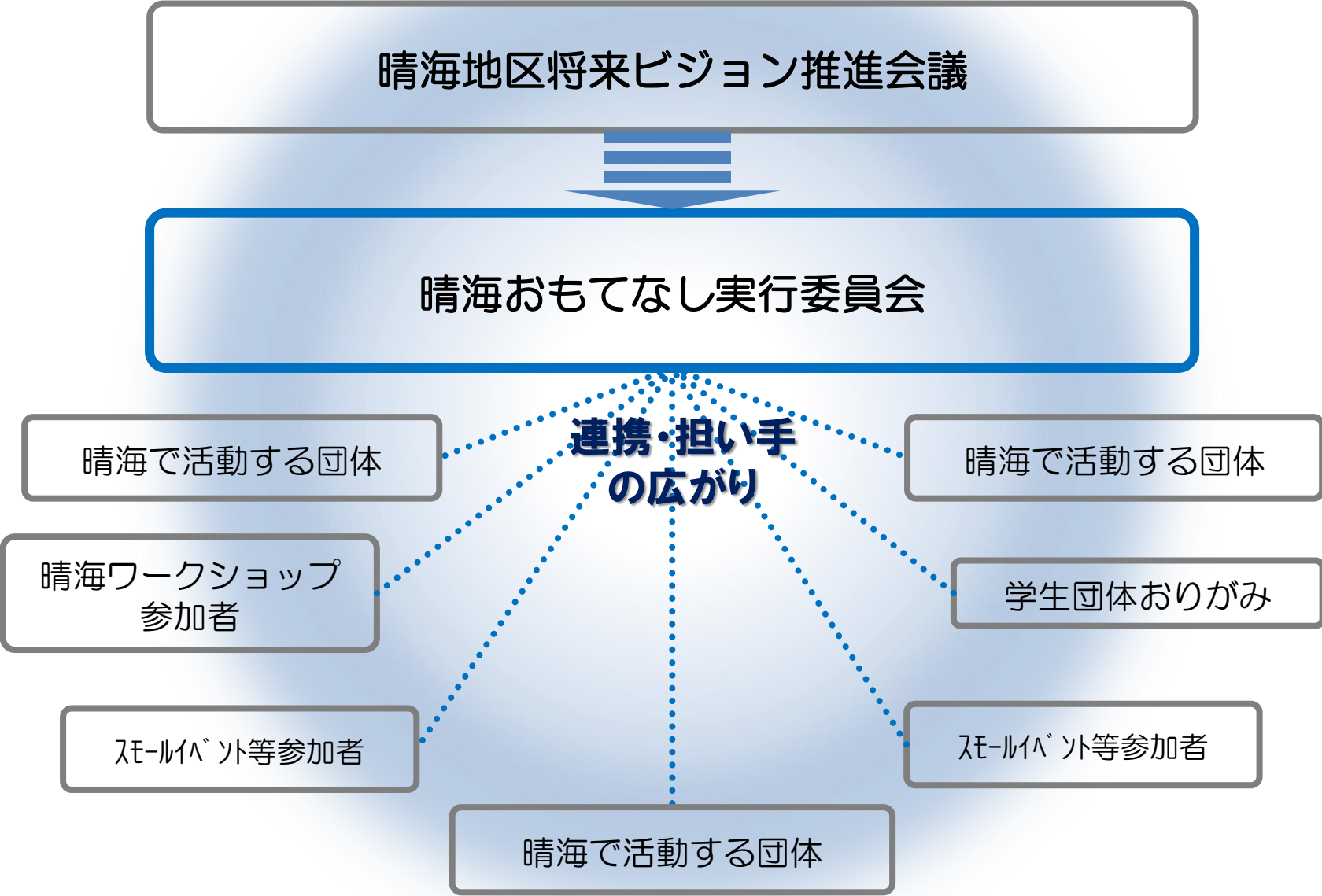
（1）晴海のまちの形成

ハード整備については、五丁目（東京2020大会終了後の選手村跡地・ほっとプラザはるみ等）及び二丁目（工場跡地・都有地）、三丁目（検討エリア）、四丁目（都有地等）における再開発等が、晴海地区将来ビジョンの実現に向けた、より良い計画となるように継続して議論を行っていく。

（2）地域全体のコミュニティ形成に向けて

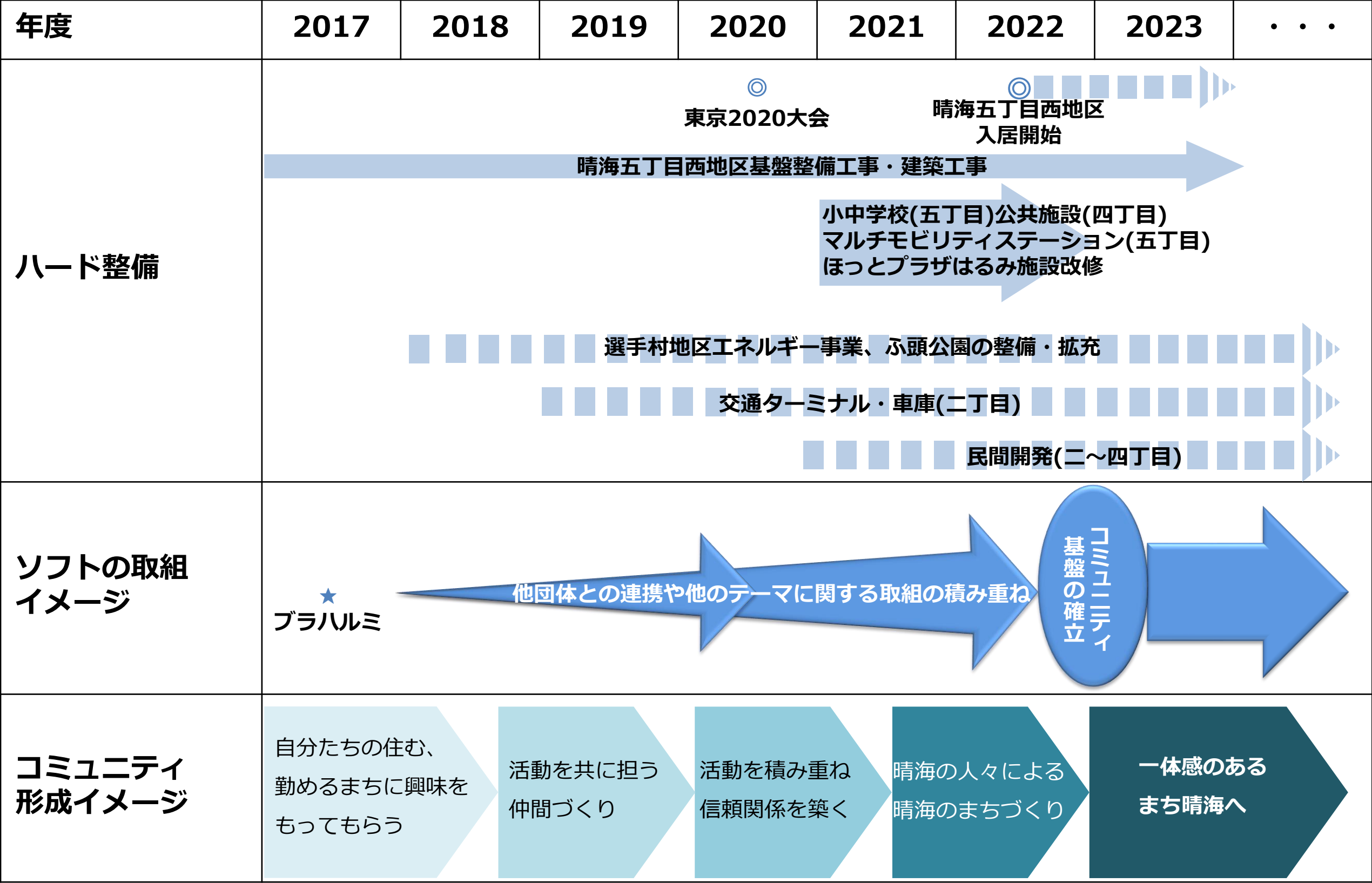
ソフト事業については、晴海おもてなし実行委員会を中心として、東京2020大会の開催を契機に、晴海地区に関わる若い世代のネットワークをつなぎ広げ、多様な団体と連携し活動の担い手を増やしていきながら継続していく。

このことを通じ、晴海に住む、働く多様な層が主体的に地域課題への解決に取り組むことができるまちづくり（プロアクティブ・コミュニティ）を推進していく。



5. 今後の晴海地区将来ビジョン推進会議について（2）

（3）今後のスケジュール



晴海地区将来ビジョン推進会議の開催内容について

	開催日時	開催場所	議事
第1回	平成29年5月28日	(株)日本建築住宅センター	(ハード) 今後のスケジュール (ソフト) 今年度の検討内容と議論の進め方
第2回	平成29年7月23日	(株)日本建築住宅センター	(ハード) 晴海五丁目小中学校、晴海ふ頭公園・緑道公園 選手村地区エネルギー事業 (ソフト) スモールイベント実施に向けたスケジュール
第3回	平成29年9月18日	晴海区民館	(ハード) 晴海五丁目小中学校、晴海ふ頭公園 市場移転及び東京2020大会にかかる要望 (ソフト) スモールイベント実施に向けたスケジュール スモールイベント提案
第4回	平成29年11月23日	ほっとプラザはるみ	(ハード) 晴海五丁目小中学校、晴海五丁目西地区道路 月島地域における公共施設等整備 (ソフト) スモールイベント事前報告 学生団体おりがみからの企画提案
第5回	平成30年1月28日	ほっとプラザはるみ	(ハード) 晴海五丁目西地区、東京2020大会輸送、 マルチモビリティステーション、 水素ステーション ・平成29年度晴海地区将来ビジョンのとりまとめ(1)
第6回	平成30年3月4日	アートはるみ	(ハード) 東京2020大会輸送、環状第二号線、ほっとプラザ マルチモビリティステーション、晴海五丁目小中学校 ・平成29年度晴海地区将来ビジョンのとりまとめ(2)